

専大スポーツ

【専大スポーツ】<https://www.senshu-u.ac.jp/sports/>

No. 447

第一戦の5000円で表彰台に立つ軍司。合計三つの金メダルを獲得した



スピードスケート ジュニアワールドカップ

軍司 2大会で優勝

ISU(国際スケート連盟)スピードスケート・ジュニアワールドカップに軍司一牙(経営1・白樺学園高)と林拓磨(経営1・白樺学園高)が参戦。11月と12月にイタリアで行われた2大会で、軍司が三つの金メダルを獲得した。

強豪・専大スピードスニアで勝負するための通ケート部の門を叩いた。過点だと思つたので「ゆっくりキーが世界の舞台で動いた。軍司は第一戦の5000円で10000円で、第二戦の5000円で優勝を果たした。

第一戦は日本とはリンクの形状が異なるうえに、屋外リンクで風が強いという状況だったが、「修正力が生きた。自分で効率がいい滑りを考え、実践することができた」と勝因を語った。

ジュニア部門の参戦は今シーズンが最後で「優勝はうれしかったが、シ

「常々チャレンジすることを忘れずに頑張りたい」と力強く語った。専大スピードスケート部のこれからの飛躍は、まだ始まったばかりだ。

なお、林は第二戦で新競技の混合リレーに河原莉緒選手(帯広三条高)とのペアで出場し、7位に入賞した。(河上明来海・文3)

専大スポーツ 編集部 公式 WEB

掲載記事を含む全文はコチラ↑

Twitter @sensuponow

Instagram sensuponow

1万円で菊池健太(経営3・白樺学園高)が2

菊池が連覇

1万円で庄巻の滑り

全日本学生スピードスケート距離別選手権大会12月9〜10日、群馬県・高崎健康福祉大学伊香保リンク



年連続の優勝を遂げた。ブレード(スケート靴の刃)を新調し「感覚が全く変わった」と話したが、不安を感じさせない庄巻の滑りを見せた。最終組で出走し、持ち前のスタミナを生かして最後まで速いラップタイムをキープ。昨年から約20秒タイムを縮め、14分03秒03でゴールした。

「ラップタイムをまとめることはできたが、トップの選手と戦うには今よりもスピードが求められる」と課題をあげた。(山縣龍人・法4)

庄巻の滑りを見せた菊池 撮影=河上

全日本レスリング選手権大会12月21〜24日、渋谷区・代々木第二体育館

男子フリースタイル79kg級で高原崇陽(経営2・高山西高)と女子50kg級で笠井梨瑚(文4・菅屋学園高)が3位となった。

高原は「天皇杯3位という結果は自信になる

フリー79kg級 女子50kg級 高原 笠井が3位



グラウンドの攻防からポイントを狙う笠井 撮影=鶴本あい(法3)

今日大会では卒業生の活躍も光った。レスリング部コーチとして後輩の指導にあたっている岡本景虎さん(合5経営)が、男子グレコローマン55kg

OB岡本さんがグレコ55kg級初優勝

「優勝を狙えた大会だった」と悔しさをにじませ、学生日本一を目標に「体力、技術を高めていきたい」と話す。

腰の痛みを抱えながらも3位決定戦まで戦い抜いた笠井は、最後まで攻めの姿勢を貫いた。「現役最後の大会で自分の実力を全て出せたので、悔いはない」と振り返った。

冬山を照らす朝日

山岳部 爺ヶ岳合宿



山岳部が12月26日から30日まで、北アルプスの爺ヶ岳東尾根で冬合宿を行った。天候に恵まれ、全員が無事に下山した。写真は幕営地を照らす朝日(山岳部提供)。

野々村が優勝

今季自己最高をマーク 1000m

野々村太陽(経営4・白樺学園高)が、2位と0・09秒差の1分08秒80で1000mを制した。

今季はワールドカップに参戦している野々村。前半戦は5位が3回と、健丸・経営2(写真も)

「入賞が増え、手応えもあるが、表彰台に立つには速さだけでなく、『強さ』が必要だと感じている」と世界で優勝する滑りを追い求める。そんな中で望んだ大会を振り返り、「日本の距離陣はW杯でも上位。今回勝てたことは良い自信になる。」

女子エペ団体 3位入賞



笑顔の女子エペチーム。左から伊藤、齋藤、平西、吉田

全日本フエンシング選手権大会(団体戦)12月22〜24日、佐賀市・SAG Aサンライスパーク

団体日本一を決める国内最高峰の大会で、女子エペが3位に入賞した。エペチームは、齋藤華南(経営3・秋田商高)、伊藤凜(人間科学3・安来高)、平西椋子(経営2・金沢西高)、吉田ひなた(人間科学2・気仙沼高)の4人編成で出場した。準決勝で今大会を制したチーム愛知に敗れたものの、3位決定戦では中京大に45-43で競り勝った。

齋藤は「苦しい試合が続いたが、最後は勝ち切ることでできて良かった。反省の多い大会でもあったので、次に生かしたい」と前向きに語った。

惜敗 4位

スティープが優秀選手賞



チームを鼓舞し続けた赤嶺主将 撮影=高野葵葉(文2)

専大は準決勝で東海大と対戦し、69-70で惜敗。3位決定戦でも筑波大に48-50で逆転負けを喫し、4位でインカレを終えた。

同点で迎えた準決勝の4Q残り時間4・2秒。東海大の速攻を止めようとした専大がファウルを取られ、フリースローを与えた。この1本が試合を決め、21年ぶりの日本一を逃した。

赤嶺有奎主将(文4・豊見城高)は、「日本一を

1部復帰ならず

関東大学ラグビーリーグ戦1・2部入替戦12月16日、埼玉県・熊谷ラグビー場

1部復帰を懸けた大事な一戦で立正大と対戦。永井大成(経営1・東福岡高)のトライで同点にして折り返したが、後半に力尽き19-28で敗れた。

飯塚俊介主将(文4・桐蔭学園高)は「あと1歩足りなかった。後輩に申し訳ない」と唇をかみ、

石倉俊二監督は「最後の最後まであきらめずに頑張った選手たちを誇りに思う」とたたえた。(野見山拓樹・文4)

受け入れられなかった」と悔し涙を流した。佐々木優一監督は「ちよっとした甘さが勝敗を分けた。絶対に負けたくないという気持ちを40分間持続するという部分が足りなかった」と悔やんだ。

なお、個人では、クベマ・ジョセフ・スティープ(経営4・福岡第一高)が優秀選手賞とリバウンド王に選出された。(山中美琴・文1)

トライを決めた永井 撮影=北原倅多(文2)